小　学　校

令和４年度

# 教育研究員研究報告書

# 国　語

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　研究の視点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅲ　研究の仮説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅳ　研究構想図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅴ　研究の方法と内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

１　基礎研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

２　調査研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

３　検証授業

低学年（第２学年） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

中学年（第３学年） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

高学年（第６学年） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

Ⅵ　研究の成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

研究主題

# 目的に応じて、必要な情報を見付ける力を育てる指導法の工夫

## ～説明的文章における一人１台端末の活用を通して～

## Ⅰ　研究主題設定の理由

「令和３年度全国学力・学習状況調査　報告書」（文部科学省）（以下、「全国学力調査」と表記。）によれば、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」設問（小学校国語「読むこと」2設問三）において、東京都の正答率は40.0％、東京都の無解答率は4.9％であった。さらに、「全国学力調査」の「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」設問（小学校国語「読むこと」2設問四）においては、東京都の正答率は37.2％、東京都の無解答率は6.5％であった。以上の調査結果から、児童は平成29年３月に告示された小学校学習指導要領国語（以下、「小学校学習指導要領」と表記。）に示された「Ｃ　読むこと(1)ウ」（精査・解釈）の指導事項に課題があると考えた。

また、「東京都教育施策大綱」（東京都教育委員会　令和３年３月）によれば、「未来を切り拓く子供たちには、進化し続ける先端技術をどう使い、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を、自ら考えだすことができる力」が求められている。そのために、「文章の意味を正確に理解する読解力、授業で学んだ知識を活用して自分の頭で考え、その考えを表現する力、対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し、新しい答えを生み出す力などを身に付けることが必要」と述べられている。「東京都教育施策大綱」に示された「文章の意味を正確に理解する読解力」は、国語科の「読むこと」において育成を目指す資質・能力である。

さらに、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会　令和３年１月26日）では、ICTは必要不可欠であり、国語科においてもこれまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが求められている。

そこで本研究では、所属校において、所属の教員と児童を対象に「読むこと」（説明的文章）に関する意識調査（以下、「意識調査」と表記。）を行い、教員の指導や児童の学びの実態について明らかにすることにした。「意識調査」（教員対象）の結果によれば、「育成したい資質・能力、指導事項に適した言語活動を設定し、児童が目的をもって読むことができるようにしていますか。」という質問項目について、肯定的に回答した教員の割合は、全体の84.9％であった。一方、「意識調査」（児童対象）の結果によれば、「目的をもって読んでいる」と肯定的に回答した児童は、全体の67.4％であった。このことから、教員と児童の読みの目的に対する意識に差があることが分かった。また、「精査・解釈」における一人１台端末の具体的な活用方法を十分に理解していない教員が多いという実態も明らかになった。

以上のことを踏まえて、小学校学習指導要領の「Ｃ　読むこと(1)ウ」（精査・解釈）の指導事項に研究の重点を置き、研究主題を「目的に応じて、必要な情報を見付ける力を育てる指導法の工夫」とし、研究副主題を「説明的文章における一人１台端末の活用を通して」として研究を進めることとした。

## Ⅱ　研究の視点

本研究の目的は、児童が「目的に応じて、必要な情報を見付ける力」を育てることである。「目的に応じて、必要な情報を見付ける」とは、小学校学習指導要領では以下の指導事項を身に付けることができるよう示されている。

低学年：文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

中学年：目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

高学年：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

この力を育てるために、本研究では、次の二点の視点から研究主題に迫ることとした。

### １　目的を意識しながら課題に取り組む学習過程の工夫

(1)　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化

児童が必要な情報を見付けるには、目的をもって文章や図表などを読むことが必要である。必要な情報は、目的や伝える相手によって異なる。そのため、児童が目的意識や相手意識をもって読み、それらに基づいて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが大切である。

そこで、本研究では、児童が、目的に応じて、必要な情報を見付ける力を育成するのに適した、児童にとって魅力ある言語活動を設定し、単元の導入において、設定した言語活動のモデルを工夫して提示するようにした。教師が作成した複数のモデルを比較したり、児童の興味・関心に沿ったモデルについて感想を述べる活動を取り入れたりするなど、必要な情報を見付け、文章に取り入れることのよさに気付けるようにした。そうすることで、児童が必然性をもって言語活動に取り組むことができると考えた。さらに、必要な情報を取捨選択や整理、再構成等するために、どのように学習を進めていけばよいか、児童が思考する時間を確保した。つまり目的を達成するためには、まず文章の内容を正しく理解することや必要な情報の見付け方などについて学習することが必要であると気付けるようにした。そうすることで、１単位時間のねらいが明確になり、児童が主体的に学習に取り組めると考えた。

(2)　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築

目的に応じて必要な情報を見付けるには、児童が身に付けた力を生かしながら課題を解決していく学習過程の構築が不可欠である。そのためには、これまでの学習で身に付けた力と本単元の学習で身に付けたい力を関連付けること、本単元を通してどのような力が身に付いたのか、単元の最後に自覚させることが必要である。

そこで、本研究では、既習の学習と本単元の学習を関連付けるために、既習の説明的文章の学習で身に付けた力を想起させる発問を意図的に行う。また、初発の感想から教材文の中心となる語や文に気付かせ、読むための観点として設定する。さらに、本単元で身に付けた力を児童に自覚させるため、第二次と単元の終末において、(1)の手だてによって明らかにした「目的」を意識した振り返りを行う。そうすることで、児童は学習のつながりを感じながら、本単元の課題を解決することができると考えた。また、２(2)に記述する対話的な学習活動を通して獲得した力や自己の変容についても振り返ることで、今後の読むことの課題解決に生かせるようにしたい。

## ２　一人１台端末を活用した指導の工夫

(1)　デジタル教材等（※）による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化

本研究では、説明的な文章を「精査・解釈」する場面において、デジタル教材等を活用した。デジタル教材等は入力した情報の追加、削除、場所の移動、資料の複製、資料への書込み等が容易にできる。

そこで、児童が教材文から目的に応じた必要な情報を取捨選択し、整理や再構成等を行う際に、デジタル教材等を活用することができるようにした。その際、以下の二点に留意した。第一に、目的に応じた読みの視点を明確にすることである。読みの視点(特に気を付けて読むこと)ごとに、付箋紙の色を変えて必要な情報を書き抜いたり、複数の画像から自分の目的に合ったものを選んだりするようにする。こうすることで、児童は読みの視点に沿って文章を精査・解釈することができると考えた。第二に、見付けた情報を可視化することである。学習支援アプリの機能を活用して、選んだ情報の中から目的や伝える相手によって最も重要なものを選択させたり、付箋紙と付箋紙を線で結んだり囲ったりして、整理・分類させたりする。こうすることで、児童が思考の流れを視覚的に表現できると考えた。

(2)　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実

本研究では、児童の「必要な情報を見付ける力」を高めるため、対話的な学習活動を意図的に設定することが重要であると考えた。そこで、デジタル教材等を活用した対話的な学習活動を通して、自分が見付けた情報を客観的に捉え直すことで、目的や伝えたい相手によって必要な情報は異なることや自分の見付けた情報の過不足に気付かせるようにする。デジタル教材等を活用することで、自分の作成物をすぐに複数の相手に送信したり、離れた場所にいる相手に自分の意見を伝えたりできる。また、複数の情報を瞬時に集計、グラフ化することも可能である。本研究では、(1)の手だてによって可視化した情報について、学習支援アプリを活用して共有する。そして、集まった情報を基に対話させることで、より多くの視点で文章を精査・解釈できると考えた。

※「デジタル教材等」とは、以下のものを指している。
児童の学習する内容が含まれているもの
（デジタル教科書、スライドのモデル、デジタルで共有した資料等）
学習するための手段となるもの
（学習支援アプリ内の機能、WEB アンケート機能、インターネット等）

## Ⅲ　研究の仮説

本研究では、前述した４点の手だてを講じることで、目的をもって読み、必要な情報を見付けることができる児童が育つであろうと考え、以下の研究仮説を設定した。

＜研究仮説＞
説明的な文章を読む学習において、目的を意識しながら課題に取り組むことができるよう学習過程を工夫したり、一人１台端末を効果的に活用したりすることで、目的に応じて必要な情報を見付けることができる児童が育つであろう。

## Ⅳ　研究構想図

【今日的な教育課題】
「令和３年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の結果
・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題（2設問三）
　東京都の正答率　　40.0%
　東京都の無解答率　　4.9%
・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題（2設問四）
　東京都の正答率　　37.2%
　東京都の無解答率　　6.5%
「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（文部科学省　令和３年１月 26 日）
４．「令和の日本型教育」の構築に向けた今後の方向性
（３）これまでの実践と ICT との最適な組合せを実現する

【東京都教育施策大綱】
（東京都教育委員会　令和３年３月）
・「未来を切り拓く子供たちには、進化し続ける先端技術をどう使い、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を、自ら考えだすことができる力」が求められる。

・「そのためには、文章の意味を正確に理解する読解力、授業で学んだ知識を活用して自分の頭で考え、その考えを表現する力、対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し、新しい答えを生み出す力などを身に付けることが必要である。」

【児童及び教員の意識の実態】
（令和４年 11 月意識調査実施）
対象：教育研究員（国語科）所属校
　　教員 119 人　児童 3,441 人
・質問１（教員）「読むこと」（説明的文章）において、育成したい資質・能力、指導事項に適した言語活動を設定し、児童が目的をもって読むことができるようにしていますか。
　肯定的な回答率　　84.9%

・質問１（児童）文章を読むときは、自分の知りたいことや解決したいことなどの目的を意識していますか。
　肯定的な回答率　　67.4%

・質問４（教員）「読むこと」の学習過程における一人１台端末の活用状況
「精査・解釈」場面　28.5%

**《研究主題》**

**目的に応じて、必要な情報を見付ける力を育てる指導法の工夫**

～ 説明的文章における一人１台端末の活用を通して ～

《目指す児童像》

［低学年］
文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる児童

［中学年］
目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる児童

［高学年］
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる児童

《研究仮説》

説明的な文章を読む学習において、目的を意識しながら課題に取り組むことができるよう学習過程を工夫したり、一人１台端末を効果的に活用したりすることで、目的に応じて必要な情報を見付けることができる児童が育つであろう。

研究主題に迫るための視点

視点１　目的を意識しながら課題に取り組む学習過程の工夫

①　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化
②　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築

視点２　一人１台端末を活用した指導の工夫

①　デジタル教材等による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化
②　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実

## Ⅴ　研究の方法と内容

### １　基礎研究

「全国学力調査」や「東京都教育施策大綱」（東京都教育委員会）、「小学校学習指導要領」等を参考にして、「C　読むこと(1)ウ」（精査・解釈）に関連付けられる力を分析した。

### ２　調査研究

説明的な文章における「目的に応じて、必要な情報を見付ける力を育てる指導法の工夫」についての意識調査を教員に対して行い、その分析から言語活動の設定や「精査・解釈」の指導、一人１台端末の活用における意識や現状、課題についての実態を把握した。また、児童に対しても同様の意識調査を行った。〔令和４年度教育研究員（小学校国語）の所属校 10 校の教員 119 人、所属校の抽出児童（第１学年～第６学年）3,441 人に実施：実施期間　令和４年 11 月〕

(1)　目的を意識しながら課題に取り組む学習過程についての調査

**質問（教員１）「読むこと」（説明的文章）において、育成したい資質・能力、指導事項に適した言語活動を設定し、児童が目的をもって読むことができるようにしていますか。（図１）**

「単元ごとに必ず行っている」、「単元に応じて、適宜行っている」と回答した割合は、図１のとおり全体の 84.9%であった。８割を超える教員が、読みの目的をもたせるための言語活動を意識的に設定していることが分かった。

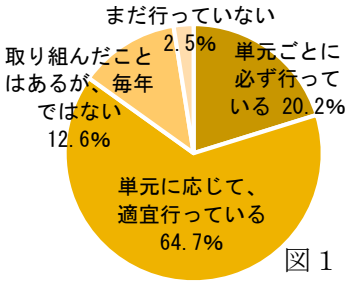

図１

**質問（児童１）文章を読むときは、自分の知りたいことや解決したいことなどの目的を意識していますか。（図２）**

児童に対する質問では、目的を「意識している」、「どちらかといえば意識している」と肯定的に回答した児童の割合は、図２のとおり 67.4%であった。

このことから、教員と児童の読みの目的に対する意識に差があることが分かり、その要因として、児童に読みの目的や課題解決の過程が認識されていない可能性があると考えられる。

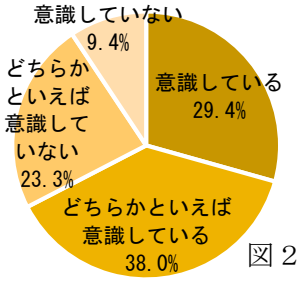

図２

**質問（教員２）重要な語や文を見付けたり、要約したり、論の進め方について考えたりする場面（精査・解釈）において、児童が必要な情報を見付けられるようにするための手だてを講じていますか。（図３）**

「いつも講じている」、「ときどき講じている」と回答した割合は、図３のとおり全体の 89.1%となり、９割に近い教員が「精査・解釈」において何らかの手だてを講じていることが分かった。この層に、どのような手だてを講じているか自由記述で尋ねたところ、教材文への線引きや色分け（42 人）、言語事項やキーワードをおさえる（39 人）、モデルの提示（11 人）といった、従来から広く行われてきた指導法に関する回答が多かった。

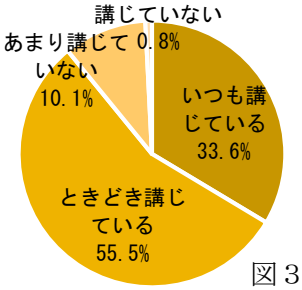

図３

**質問（児童２）文章を読むときは、内容を理解するために、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引いたり、丸や四角で囲ったりするなど、工夫していますか。（図４）**

児童に対する同様の質問では、肯定的な回答をした児童は63.4%となり、ここでも教員と児童との間に意識の隔たりがあることが分かった。教員の回答でも多かった線引きや丸囲いといった必要な情報を見付けるための手段が、教員からの指示にとどまっており、児童にとって自分の読みの手段になっていないことが考えられる。

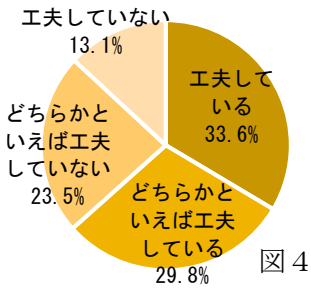

図４

(2)　一人１台端末の活用についての調査

質問（教員４）では、**「読むこと」（説明的文章）の学習過程における一人１台端末の活用状況（図５）**を尋ねた。

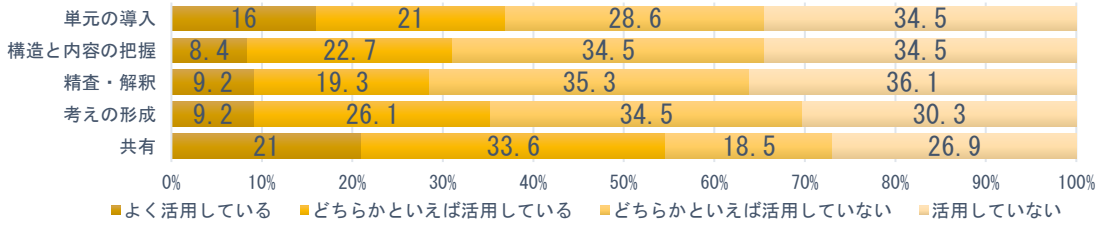

図５「読むこと」(説明的文章)の学習過程における一人1台端末の活用状況

「活用している」、「どちらかといえば活用している」と回答した教員が最も多かった場面は「共有」で、その割合は54.6%であった。一方、「精査・解釈」ではその割合が28.5%と「読むこと」の学習過程の中で最も低くなった。また「**一人１台端末の活用方法を新たに知りたいと思う場面**」を尋ねた質問５（複数回答可）では、「精査・解釈」場面を選んだ教員が最も多く（119 人中 72 人）、６割を超える教員がこの場面での一人１台端末の活用方法を知りたいと思っていることが分かった。また、質問５で選んだ場面で「**一人１台端末を活用したいと思う理由**」を尋ねた質問６（複数回答可）では、「よりよい学習効果が得られそうだから」が「まだ活用したことないから」と同率の 47%に上った。「精査・解釈」の指導法として、一人１台端末の有用性を感じながらも、具体的な活用方法を十分に理解していないため、活用できずにいる教員が一定数いることが分かった。

さらに、児童に対して、一人１台端末が「**文章に線を引いたり、丸や四角で囲ったりするときに役に立つか**」を尋ねた質問では、図６のとおり 82.9%の児童が肯定的な回答をしている。このことから、児童も一人１台端末を説明的文章の読みの手段として効果的なツールであると実感していることが分かった。

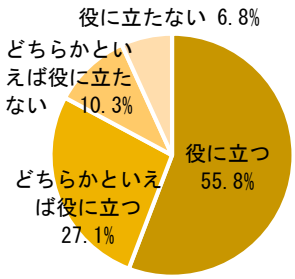

図６

以上の結果から、「目的に応じて必要な情報を見付ける力」を育てるためには、児童が読む目的を意識しながら課題に取り組む学習過程を構築し、目的に応じた必要な情報の取捨選択や整理、再構成等に主体的に取り組めるようにすることとともに、児童の主体性を高める具体的な手段として、一人１台端末を効果的に活用することが必要であると考えた。

## ３　検証授業

低学年（第２学年）

(1)　単元名　読んで分かったことを、スライドショーでせつめいしよう
　　教材名「さけが大きくなるまで」

(2)　単元の目標

○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア

○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

(3)　単元で取り上げる言語活動

文章を読んで、分かったことをスライドショーで説明する。
（関連：〔思考力、判断力、表現力〕C(2)ア）

(4)　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） | ①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ）<br>②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） | ①進んで文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習したことを生かして、分かったことや感じたことを、説明しようとしている。 |

(5)　研究主題に迫るための手だて

ア　目的を意識しながら課題に取り組む学習過程の工夫

(ｱ)　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化

本単元での指導事項は、「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」、「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと」である。これらの指導事項を身に付けるため、「文章を読んで、分かったことをスライドショーで説明する」という言語活動を設定した。「スライドショー」は、「①『すごい』と思ったところ」、「②さけという魚への児童の思い」、「③理由」の三点で構成することとした。

本教材は、児童にとって比較的身近な魚である「さけ」が題材となっている。さけの成長過程について詳細に知っている児童は少ない。そのため本教材を読んで驚くことや初めて知ること、感動することなど「すごい」と感じることが様々にある。それを「さけって、

○○だな。」（○○には、「賢い」、「たくましい」、「頑張り屋」などが入る。）という言葉でまとめ、叙述とともに説明することとした。考えたことを伝えるためには、根拠となる叙述を詳しく捉える必要がある。文章を読み、児童がさけについて「すごい」と捉えた叙述をスライドにまとめ、考えを合わせて説明する。

(ｲ)　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築

初発の感想を書く際に、「①『すごい』と思ったところはどこか。」、「②さけはどのような魚だと思ったか。」、「③またそう考えた理由」という構成で書くことを確認する。初発の感想に対して場所や順序、さけの成長過程について問い返しをすることで、内容について更に理解する必要性が生まれる。また自分が伝えたいことをより明確にしていくための学習計画を児童とともに作成することで、進んで学習に取り組み、必要感をもって学ぶことができると考える。

イ　一人１台端末を活用した指導の工夫

(ｱ)　デジタル教材等による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化

本単元では、デジタル教材等を用いて読み取ったことをスライドにまとめる。スライドには、自分の考えの根拠となる大事な言葉や文を選び出して書き込む。具体的には、自分が選んださけの成長過程について、「時」、「場所」、「誰が」、「どうした」を川の縮図に書き込んだり貼り付けたりした。また、「大きさ」や「様子」などにも着目し、詳しく捉えてまとめた。川の縮図上に、何をどのように配置すればよいかを考えるため、繰り返し叙述に立ち戻る。さらに読み取ったことをデジタル教材等で可視化することによって、本文をどのように捉えたかを共有することができる。

(ｲ)　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実

「さけって○○だな。」という自分が感じたすごさの根拠となる叙述を見付けるときには似た考えの友達と、理由を明確にして伝えるときには考えの違う友達とデジタル教材等を活用して交流することで考えを広げたり深めたりすることができるようにした。また児童の必要に応じた意見交流ができるようにした。

(6)　学習指導計画（８時間扱い）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>学習活動</th><th>指導上の留意点</th><th>評価規準・方法</th></tr>
<tr><td rowspan="4">一</td><td colspan="4">ア(ｱ)　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>○「ほたるの一生」のスライドショーを見て、単元の見通しをもつ。</td><td>・スライドショーにまとめて発表するというモデルを示し、言語活動のゴールイメージの共有と意欲の向上を図る。</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">言語活動：文章を読んで、分かったことをスライドショーで説明する。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>○スライドショーの作り方を知る。<br>○単元のめあてを知る。</td><td>・本文とスライドを比較し、必要な語や文の選び出し方を理解できるようにする。<br>・自分が感じたさけの「すごい」ところを家族に伝えるという目的を確認する。</td><td></td></tr>
</table>

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ○本文を読んで、初発の感想を書く。 | ・初発の感想の視点を示す。 | |
| | ア(ｲ)　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築 | | | |
| | 3 | ○学習計画を立てる。<br><br>○問いの文を見付け、答えを考える。 | ・デジタル教材等で感想を共有できるようにする。<br>・問いの答えは、文章全体に書かれていることを確認する。 | |
| 二 | 4 | ○段落に沿って、内容の大体を捉える。 | ・デジタル教材等で写真を順序よく並べ替えられるようにし、さけの成長過程が捉えられるようにする。<br>・「時」、「場所」、「だれが」、「どうした」について、表にまとめながら確認する。 | |
| | ア(ｲ)　デジタル教材等による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化 | | | |
| | 5<br>・<br>6<br>・<br>7 | ○「さけって、○○だな。」と思った根拠を見付け、交流する。<br><br>○成長過程の中から家族に伝えたい叙述を選ぶ。<br>○根拠となる叙述を確かめながらスライドにまとめる。<br>○スライドを基に、成長過程の説明、考えの根拠・理由を書く。 | ・根拠となる叙述にサイドラインを引いた全文シートを基に、似た考えの友達と交流することを確認する。<br>・根拠となる叙述と自分の考えが一致しているかを確認するように促す。<br>・一番「すごい」と思った成長過程の「時」、「場所」、「だれが」、「どうした」、「大きさ」、「様子」について、叙述を基に必要に応じてスライドに書き込むように伝える。<br>・「自分が知っていたことと比べて」、「初めて知って」、「自分だったら」など、理由を書く視点を示す。 | 〔思考・判断・表現①〕<br>ワークシート・デジタル教材等・観察<br>〔知識・技能①〕<br>ワークシート・デジタル教材等・観察<br><br>〔思考・判断・表現②〕<br>ワークシート・観察 |
| | イ(ｲ)　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実 | | | |
| | | ○友達と理由を交流し、考えが伝わるかを確認する。 | ・似た考えの友達と交流し、根拠や理由を確かめながら、考えが伝わるかを確かめるように伝える。 | |
| 三 | 8 | ○友達と発表し合い、互いによいところを伝え合う。<br><br>○単元を振り返る。 | ・違う考えをもっている友達と交流し、考えが伝わるかを確かめるように伝える。<br>・家族に説明する際に生かせるように、伝わりづらいところは修正するように促す。<br>・根拠となる叙述を見付けたり、考えをもったりする時にできるようになったことや今後生かしたいことを書くように促す。 | 〔主体的に学習に取り組む態度①〕<br>ワークシート・観察 |

中学年(第３学年)

(1)　単元名　説明のしかたのくふうを知り、食べ物のひみつを伝えよう

教材名「すがたをかえる大豆」　国分　牧衛

(2)　単元の目標

○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。

〔知識及び技能〕(2)イ

○段落相互の関係に着目しながら､考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ(1)ア

○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ(1)ウ

○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力､人間性等」

(3)　単元で取り上げる言語活動

文章を読んで、説明の仕方の工夫を知り、その工夫を使って、自分が興味をもった食べ物を調べて分かったことや考えたことを文章にまとめる。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ(２)ウ）

(4)　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方について理解し使っている。((2)イ) | ①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(Ｃ(1)ア)<br>②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(Ｃ(1)ウ) | ①進んで目的を意識して中心となる語や文を見付け、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫を理解し、その工夫を使って、食べ物を調べて分かったことや考えたことを説明しようとしている。 |

(5)　研究主題に迫るための手だて

ア　目的を意識しながら課題に取り組む学習過程の工夫

(ｱ)　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化

本単元での指導事項は、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」､「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」である。これらの指導事項を身に付けるために、「文章を読んで説明の仕方の工夫を知り、その工夫を使って食べ物の秘密を文章にまとめる」という言語活動を設定した。単元の導入では「食べ物の秘密をまとめた文章」について、筆者の説明の仕方を生かしたものとそうでないものを二つのモデルを示したことで、「自分の文

章に筆者の説明の仕方の工夫を生かす」という目的を明確にし、本教材で学習する必然性が生まれるようにした。教師は１単位時間のねらいを明確にもち、児童の読みの目的と結び付く学習指導計画を意図的に組んだ。

(ｲ)　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築

本単元では、初発の感想をデジタル教材等に入力し全員で共有することで、自分の感想を友達の感想と結び付けたり分類したりして、児童の考えを生かし、学習計画に反映できるようにした。そうすることで、単元のゴールに向かって、毎時間の授業で身に付けていく力が明確になり、単元を通して学習する目的を実感できるようにした。

イ　一人１台端末を活用した指導の工夫

(ｱ)　デジタル教材等による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化

中心となる語や文を見付ける際に、デジタル教材等を活用した。データ化した本文から、文や段落を自由に抜き出し並べて見比べられるようにすることで、共通する語句を見付け、全文を見ただけでは分かりにくかったり音声で伝えるだけでは流れてしまったりする事柄について可視化を図った。

(ｲ)　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実

対話的な学習活動の充実を図るために、デジタル教材等を用いて、互いの考えを確認できるようにした。そこから、対話を通して共通点や相違点を見付け、読みを深めていく過程において、説明の仕方の工夫に関する新たな視点を見付け、考えを広げたり深めたりできるようにした。

(6)　学習指導計画（11 時間扱い）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>学習活動</th><th>指導上の留意点</th><th>評価規準・方法</th></tr>
<tr><td rowspan="6">一</td><td colspan="4">ア(ｱ)　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1<br>・<br>2<br>・<br>3</td><td>○教師が作成した「食べ物紹介カード」から学習の見通しをもつ。<br>○学習のねらいを捉え、単元のめあてと言語活動を理解する。</td><td>・教師の作成した食べ物の秘密を文章にまとめたカードの文例を提示することで作ってみたいという意欲がもてるようにする。紹介カードを一つにまとめ「食べ物紹介ブック」としてまとめる言語活動のゴールイメージを共有し、学習の見通しをもてるようにする。</td><td>〔知識・技能①〕<br><u>ノート・デジタル教材等・観察</u></td></tr>
<tr><td colspan="3">言語活動：説明の仕方の工夫を知り、その工夫を使って食べ物紹介文をまとめる。</td></tr>
<tr><td>○本文を読み、筆者の説明の仕方で分かりやすいと思ったことについて初発の感想を書く。</td><td>・デジタル教材等を用いて初発の感想を共有することで、学習計画を全体で考える際に生かせるようにする。</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">ア(ｲ)　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築</td></tr>
<tr><td></td><td>○初発の感想を基に学習計画を立て、一人一人</td><td>・単元のゴールに向けて必要な学習について考えられるようにする。</td><td></td></tr>
</table>

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | が何を身に付けたいかを明確にしながら学習の見通しをもつ。<br>○構成や大まかな内容、筆者の考えを捉える。 | 児童の言葉を生かして学習計画を立てられるようにする。<br><br>・初めに話題、中に五つの例があることを押さえるよう助言する。<br>・並行読書を行いながら調べたい食べ物を選べるよう助言する。 | |
| 二 | | ○初発の感想を基に、筆者の説明の仕方の工夫について捉える。 | ・「中」で、繰り返し「おいしく食べるくふう」と書かれている文が中心文であることに気付くようにする。 | 〔思考・判断・表現②〕<br>ノート・デジタル教材等・観察 |
| | イ(ア)　デジタル教材等による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化 | | | |
| | 4・5・6 | ○デジタル教材等を活用して、各段落の中心文を見付ける。<br>○選んだ本から、おいしく食べる工夫が書かれている文を探す。<br>○筆者の例の挙げ方に着目する。<br>○選んだ本から例として挙げたい食品を選ぶ。 | ・デジタル教材等を用いて中心文をつなげることで、話題提示された「おいしく食べるくふう」が理解できるよう指導する。<br>・おいしく食べる工夫が中心文となることを押さえられるようにする。<br>・接続語や作り方を確認し、分かりやすいものから例を挙げていることに気付くようにする。 | ［主体的に学習に取り組む態度①］<br>ノート・デジタル教材等・観察 |
| | イ(イ)　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実 | | | |
| | | ○「初め」、「終わり」と「中」のつながりを捉える。<br>○「初め」、「中」、「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を整理し内容を端的に友達に説明する。 | ・「初め」、「終わり」の具体的な言葉を示し、「中」とどのようにつながっているか確かめられるようにする。<br>・第４学年の要約につながる学習活動として、中心となる語や文を整理し内容を端的に説明することで理解が深まるよう指導する。 | 〔思考・判断・表現②〕<br>ノート・デジタル教材等・観察 |
| | 7 | ○筆者の書き方の工夫から、自分が第三次で活用したい工夫を文章にまとめる。<br>○書いた文章を友達と共有する。 | ・自分が紹介する食べ物を想像しながら、段落と段落との関係に気を付けて文章の構成を考え、写真の挙げ方などについて生かしたい事柄をまとめられるようにする。 | 〔思考・判断・表現①〕<br>ノート・デジタル教材等・観察 |
| 三 | 8・9・10 | ○調べた内容を整理する。<br><br>○文章構成を考える。<br>○下書きを書く。<br>○清書する。 | ・デジタル教材等を用いて内容を整理し、「おいしく食べるくふう」と食品を明確にできるようにする。<br>・読み手に分かりやすい順序になるように、今までの学習を生かして考えるよう助言する。 | 〔知識・技能①〕<br>ノート・デジタル教材等・観察<br>〔思考・判断・表現①〕<br>ノート・デジタル教材等・観察 |
| | 11 | ○友達と読み合って感想を伝え合う。<br>○単元を振り返る。 | ・身に付いた力をこれからの学習や生活で活用できる場面を考えるように促す。 | |

高学年（第６学年）

(1)　単元名　表現のくふうをとらえて読もう

教材名「『鳥獣戯画』を読む」

※ 本単元で捉えた筆者の表現の工夫を、次の単元「日本文化の魅力再発見」において生かすという設定とした。

(2)　単元の目標

○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。　〔知識及び技能〕(1)ク

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

(3)　単元で取り上げる言語活動

文章を読んで、筆者の表現の工夫を見付け、その工夫について文章にまとめる。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア）

(4)　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。<br>（(1)ク） | ①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ） | ①進んで文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりして、学習課題に沿って、次の学習に活用したいことをまとめようとしている。 |

(5)　研究主題に迫るための手だて

ア　目的を意識しながら課題に取り組む学習過程の工夫

(ｱ)　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化

本単元での指導事項は、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」である。この指導事項を身に付けるために、「文章を読んで、筆者の表現の工夫を見付け、文章にまとめる」という言語活動を設定した。特に、本単元では筆者がどのように読者に『鳥獣戯画』の魅力を伝えようとしているのか、「絵の読み方」と「書きぶり」について読んでいく。学習指導要領解説国語編では、本指導事項について、「必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが重要である。」と述べられている。

本単元では、次単元の書くことの学習と関連付けた学習過程を組み、読み手に日本文化のよさが伝わるパンフレットを書くために、教材文「『鳥獣戯画』を読む」を読んで表現の工夫を見付ける、という目的意識をもたせる。そのために、本単元の第一次において、次

の単元「日本文化の魅力再発見～高畑メソッドを生かしたパンフレット作り～」というゴールを提示し、次の単元の学習まで見通して学習活動に取り組むことができるようにした。

(ｲ)　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築

本単元では、初発の感想を交流する活動を通して、文章の内容に対する児童の気付きや問いを集約するとともに、それらを生かした読み方について着目し、児童が学習過程を構築できるように支援する。また、「学習を通して、どのような力を身に付ける必要があるのか」、「振り返りには何を書くべきか」について確認したり話し合わせたりすることで、単元の学習について目的意識と見通しをもてるよう指導する。

イ　一人１台端末を活用した指導の工夫

(ｱ)　デジタル教材等による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化

目的に応じた読みの視点を設定するために、初発の感想で出た様々な意見から児童が「表現の工夫」となるキーワード（構成、文末表現、話し言葉など）を抽出できるように、デジタル教材等を活用する。デジタル教材等によって可視化された意見は、「パンフレット作りに生かせそうな方法であるか」という視点で、「論の展開について」、「表現の工夫について」、「絵の示し方について」の三点の工夫として分類する。

(ｲ)　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実

対話的な学習活動の充実を図るために、デジタル教材等を用いて、互いの考えを共有できるようにした。第二次では、筆者の表現の工夫を様々な視点から探し、工夫が本文のどこにどのような形で表れているかを、線を引いたり挿絵に書き込んだりして、児童が自ら選択した方法で提出させる。児童は、デジタル教材等で共有される友達の意見を自分の考えに加えながら、自分の意見を練り上げることができるようにした。

(6)　学習指導計画（８時間扱い）

| 次 | 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 一 | ア(ｱ)　児童にとって必然性のある言語活動の設定と１単位時間のねらいの明確化 | | | |
| | 1・2 | ○次単元の活動を知るとともに、本教材を読む目的を明確にし、読み手に日本文化のよさが伝わる表現の工夫についての課題意識をもつ。<br>○本文を読み、気付いたことや疑問に思ったことについて交流する。 | ・表現の工夫を省いた不完全な本文から、『鳥獣戯画』のよさが伝わりづらい要因を考えることで、学習に対する課題意識をもてるようにする。<br>・初発の感想を書く際の視点は、読んで分かった筆者の表現の工夫を見付けることとする。 | 〔知識・技能①〕<br>ワークシート・デジタル教材等・観察 |
| | | 言語活動：文章を読んで、筆者の表現の工夫を見付け、文章にまとめる。 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | イ(ｱ)　デジタル教材等による目的に応じた読みの視点の設定と見付けた情報の可視化 | | | |
| | | ○初発の感想を基に学習計画を作成し、単元の見通しをもつ。 | ・デジタル教材等を活用し、児童から挙がった表現の工夫を可視化する。 | |
| | ア(ｲ)　児童にとって課題解決の過程となるような学習過程の構築 | | | |
| | | | ・単元のゴールに向けて必要な筆者の表現の工夫を三点に分類し、学習計画に明記する。 | |
| | 3 | ○文章全体を三つに分け、文章全体の構成を捉える。 | ・文章を「初め・中・終わり」に分けることで、尾括型の文章構成であることを確認し、本文の要旨を捉えられるようにする。 | |
| 二 | イ(ｲ)　デジタル教材等による対話的な学習活動の充実 | | | |
| | 4 | ○筆者の表現の工夫を様々な視点から探し、対話的な学習活動を通して筆者の表現の工夫の豊かさを実感する。 | ・筆者はどのような表現の工夫で読み手をひき付けたのか、様々な視点から探し出し、三点の工夫に分類されたフォルダに提出する。<br>・デジタル教材等で共有される友達の意見を取り込みながら、自分の意見を練り上げられるようにする。 | 〔思考・判断・表現①〕<br>ワークシート・デジタル教材等・観察 |
| | 5・6・7 | ○筆者の「論の進め方について」、その効果を考えながら読む。<br>○筆者の「表現の工夫について」、その効果を考えながら読む。<br>○筆者の「絵の示し方について」、その効果を考えながら読む。 | ・児童が見付けた「論の進め方について」、「表現の工夫について」、「絵の示し方について」を分析し、その効果を考えられるように促す。<br>・「その工夫がなければ、読み手への伝わり方はどう違うか」という視点で考えられるように促す。<br>・「振り返り」は、「パンフレットを作るときに活用したい高畑メソッド」という観点で、学んだ効果を自分の言葉で言語化する。 | 〔思考・判断・表現①〕<br>ワークシート・観察<br><br>〔知識・技能①〕<br>ワークシート・観察 |
| 三 | 8 | ○本単元で学んだことを次単元でどのように活用するかを考え、まとめる。 | ・単元を振り返り、学んだ筆者の表現の工夫を確認する。 | 〔主体的に学習に取り組む態度①〕<br>ワークシート・観察 |

## Ⅵ　研究の成果と課題

### １　検証授業について

| | 視点１　目的を意識しながら課題に取り組む学習過程の工夫 | 視点２　一人１台端末を活用した指導の工夫 |
|---|---|---|
| 低学年 | ○単元の導入において、教師が他の題材で作成したスライドショーのモデルを提示したことで、「読んで分かったことを、スライドショーで説明する」という目的を明確にし、児童は見通しをもち進んで学習することができた。<br>○「さけって○○だな。」という感想の中心をもって教材文を読む活動を通して、児童は自分の考えの根拠となる大事な言葉や文を選び出して、スライドショーにまとめることができた。 | ○川の縮図とさけのイラストを使って文章の内容を説明する活動を通して、児童は「時」「場所」、「誰が」、「どうした」や「大きさ」、「様子」などの読みの視点を明確にしながら教材文を読むことができた。<br>○本文とワークシート、デジタル教材等の三つの媒体を活用しながらスライドを作成する活動を通して、児童は見付けた情報を絵や文に表すことで可視化することができた。 |
| 中学年 | ○初発の感想を全員で共有し、それを基に学級で学習計画について話し合ったことで、「説明の工夫を知り、友達に向けて食べ物の紹介ブックを作る」という目的を達成するために必要な学習を明確にすることができた。<br>○教材文や自分が選んだ本から「おいしく食べる工夫」を見付ける活動を通して、児童は中心となる語や文を整理し、内容を端的に説明することができた。 | ○デジタル教材等を活用して「問いの答えとなる文」や「自分にとって必要な情報」を抜き出して共有することで、共通する語句（キーワード）を見付けることができた。<br>○デジタル教材等を活用して、見付けた情報を共有したことで、児童は学級全員の考えを一度に確認することができ、自分の考えを客観的に捉え直すことができた。 |
| 高学年 | ○単元の導入において、表現の工夫を省いた不完全な本文を提示し、読んだ感想を共有することで、「教材文を読んで表現の工夫を習得する」という目的を明らかにすることができた。<br>○学習計画を立てる際、「学習を通して、どのような力を身に付ける必要があるのか」、「振り返りには何を書くべきか」について話し合った。その観点に沿って単元途中や単元末に振り返りを繰り返すことで、児童は本単元で身に付けた力を自覚することができた。 | ○デジタル教材等を活用して情報を共有したことで、目的や伝える相手を再確認しながら自分が見付けた情報を捉え直したり、付け加えるべき情報について気付いたりすることができた。<br>○デジタル教材等を活用し、「論の進め方」、「表現の工夫」、「絵の表し方」の三つのフォルダを作成したことで、児童は読む視点を意識しながら、必要な情報を見付けることができた。 |

### ２　全体の成果と課題について

(1)　成果

・説明的な文章を読む学習において、目的を意識しながら課題に取り組むことができるよう学習過程を工夫することで、児童は単元を通して、文章を読む必然性を感じるとともに、自分にとって必要な情報を見付けることができた。

・説明的な文章を読む学習において、一人１台端末を活用した指導を工夫することで、児童は目的に応じた読みの視点に沿って、見付けた情報を可視化したり、可視化した情報を基にした対話を通して自分の考えを客観的に捉えたりすることができた。

(2)　課題

・児童一人一人の読む目的が明確になるほど、それぞれの必要な情報も異なってくるため、教師は児童一人一人の目的に合わせて、課題解決の過程となるような学習過程を構築し、個別最適な学びを実現する必要がある。

・デジタル教材等を活用することで、多くの情報を共有することができたが、その情報から、目的に合った必要な情報を取り出し、有効に活用する力を育てるための指導を工夫する必要がある。

# 令和４年度　教育研究員名簿

## 小学校・国語

| 学　校　名 | 職　名 | 氏　名 |
|---|---|---|
| 文京区立大塚小学校 | 主任教諭 | 来栖　称子 |
| 目黒区立下目黒小学校 | 主任教諭 | 鈴木　香名 |
| 世田谷区立尾山台小学校 | 主任教諭 | ○本條　禎之 |
| 板橋区立板橋第十小学校 | 主任教諭 | 伊藤　あゆ美 |
| 練馬区立泉新小学校 | 主任教諭 | 小早川　直樹 |
| 江戸川区立西小岩小学校 | 主幹教諭 | ◎長江　純 |
| 三鷹市立第四小学校 | 主任教諭 | 平野　優 |
| 昭島市立富士見丘小学校 | 主任教諭 | 松清　のぞみ |
| 調布市立緑ヶ丘小学校 | 主任教諭 | 吉田　知美 |
| 東大和市立第一小学校 | 主幹教諭 | 齋藤　公子 |

◎ 世話人　○ 副世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事　中嶋　康彦

# 令和４年度
# 教育研究員研究報告書
# 小学校・国語

令和５年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９